

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600640		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームふるさと(青い鳥ユニット)		
所在地	苫小牧市豊川町2丁目1番2号		
自己評価作成日	令和3年2月22日	評価結果市町村受理日	令和3年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600640-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ふるさとでは、安心安全の中、自立支援に努めています。それぞれの能力に応じて掃除や洗濯、料理の下ごしらえなどの役割を持っていただくことで日常生活にメリハリが付き生き生きとした毎日を送り、できることの継続が自信に繋がるようサポートしていきます。
 ・ふるさとではアットホームな雰囲気の中で、ゆっくりとした時間を過ごしていただいています。また、プライベートな空間(居室)では、なじみ深い家具や写真を置くなどすることで自分らしく安心して寛ぐことができる環境作りにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホームふるさと」は樹木や緑地が続く遊歩道に面し、買い物や飲食などの商業施設に近い距離にもある生活利便の良い環境に立地している。昨年7月、当法人が運営母体となり組織力を活かした連携や協働の元に新たな仕組み作りや運営マネジメントが行われている。今年度は自粛であるが例年、町内会のお祭りや盆踊り、小学生の体験学習、ボランティアの受け入れ、講師を招いた手芸教室など利用者が地域と交流を保ち生活を送る事を大切にしており、また、風光明媚な場所や観光地、買い物、好物を食べに出かけるなど多彩な外出支援を行っている。昨今は公園や遊歩道での散歩や外気浴等に留まらざるを得ない状況であるものの、周辺環境を活かし最大限の支援を行っている。家事作業など利用者の持てる力を発揮する場面を整えたり、アットホームな雰囲気の中、好みのDVDの視聴など思い思いのゆっくりとした時間を過ごせるようにしている。家族のアイデアも取り入れ入浴を拒むことがなくなった事例や臥床時間が長く小食であった利用者が職員の関わりを多くする事で楽しく食事ができるようになり、しいてはレクリエーションに参加できるようになった事例があるなど、ケアマネジメント力も特筆できる。家族へ毎月モニタリング表を送付するなど、共に本人を支えていく関係を築き利用者のより良い支援に臨んでいる。5つ目の理念である「そして私たちはいつもみなさんのそばにいます」の温かさが感じ取れる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社名変更を機に新しく事業所理念を作成し、それに沿って日々実践に繋がられるよう意識して努めている。	昨年、職員からも意見を出してもらい5つの新たな施設理念を標榜した。パンフレットや事業所内要所へ掲示している。入職時研修で理念について学ぶ機会がある。理念が支援に活かされるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、コロナ感染予防対策で出来ているとは言えないが、以前は町内会の行事等に参加していた。	例年、町内会のお祭りや盆踊りの参加、小学生との交流、傾聴ボランティアの受け入れ、毎月講師を招いての手芸教室が催されており、今年度はそれらが自粛であるが、笑顔の写真展への出展を行うなど可能な範囲で取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	十分に活かす事は出来ていないが、ブログやホームページ・パンフレットを活用して少しずつ貢献していけるよう努めている。又、今後どの様に地域の方々を知って頂けるか考え実践していけるよう取り組んで行きたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度(年6回)の開催で、取り組み状況や近況報告にて話し合いを行いサービスの向上に生かしてきたが、コロナの影響で今年度は第1回目から書面での報告としている為、意見などは寄せられていない。	前年度、家族の意見を受け防犯を鑑みた1階玄関の施錠やインターホンの設置を行った。今年度は5月より書面にて報告しており、近況や事故・ヒヤリハット、職員状況、今後の予定等を通知している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係を築いていく為、空き状況・待機者数の報告・サービスの取り組みについてなど伝えながら、連絡を密に取れるよう努めている。	市の担当部署より感染防止対策に係る情報等のメールを得たり、事業所からは個別案件で担当者へ意見を仰ぐなど課題解決に向け協力が得られている。グループホーム連絡会からはチームケアの参考事例が届き現場へ発信している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを職員に周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、3か月に1度不適切ケア防止委員会を開催している。事業や予防・防止に関する業務内での取り組みについて協議している。年2回これらに係る内部研修を実施している。毎月、身体拘束適正化の取組実施状況確認表を法人に提出し、適正化に向けた実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時の研修や不適切ケア対策防止委員会等の資料や職員同士での話し合いを行い防止に努めている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	無資格・未経験で1年～2年未満の新人が多い事と、コロナの影響で研修に出す事が出来ていない為、1度内部で権利擁護について自主研修を行い理解を深めるよう取り組んだが、今後は学ぶ機会を持ち、それらを活用していける事が望ましい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、不満や疑問点を聞きながら十分な説明を行い理解を得られるように努めている。又、改定などの際にも同様に説明を行い同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス内容に関しての意見や要望は聞かれ、運営に関しての声は余り聞かれないが、その都度意見・要望等がある際には反映させるよう努めている。又、苦情相談窓口も設置している事を伝えている。	ブログでの発信や家族へ毎月モニタリング表と個別の手紙を送付し本人の状況等を伝えるなど、特変時はもとより情報を伝達する機会が多い。利用者からは忌憚のない声も上がっており話しやすい環境が窺える。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が働きやすい環境にしていく為にも、個人面談等を通して不満や疑問点を聞きながら、出来る限りで反映させていけるよう努めている。	管理者とユニットリーダーが定期及び必要時に職員との個別面談を実施している。法人による就業に係る整備が進められ、ユニットバス、エアコン、システムキッチン等が新しく設置されるなど設備面でも職場環境の改善に至っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が向上心とやりがいを持って働けるよう、事業所実績や勤務状況を把握し、職場環境の整備や条件の改善・見直しに努めて頂いていると思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修などの資格取得の為に学ぶ機会を設けている。又、現状はコロナの影響で外部の研修には参加出来ていない為、法人内で研修を受け知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦で出来ていないが、以前は交流する機会を設けていた。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけご本人の要望に応えるべく時間をかけて信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望など思いを汲み取りながら関係づくりに努めている。又、無理難題を求められる事もあり、その際には説明して理解を得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況・状態を把握し、要望を聞き取りながら「その時」必要とする支援を見極め、他のサービスも含め検討し併用で支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共に過ごす者として関係を築いていけるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人との橋渡しが出来るよう信頼関係も大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦の為、直接の面会は難しいですが、関係維持に努めている。	自粛以前は10日に1度馴染みの飲食店での外食を希望する利用者や友人と一緒にの外出などをサポートしていた。現在は家族との電話のやり取りや会話の中で馴染みの人や場について思い出してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の性格を把握しながら職員が間に入ったり利用者同士で関り合えるよう支援に努めている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者は退去後も、ご家族・ご本人から定期的に連絡や相談があり、これまでの関係を無駄にしない様その時々でフォローや支援に努めている。又、連絡が途切れた際には安否確認を兼ねて連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人の立場に立って支援するよう努めている。	直接本人に暮らし方の意向等を聞くことを基本とし、伝えるのが困難な場合は、日常生活の中で本人の思いに沿う内容となるよう情報を共有し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴等の情報は個別ファイルを作成して職員が把握出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	注意深く一人一人観察して記録に残して職員が把握出来る様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ渦の為、全員でのモニタリング会議は出来ていないが、毎月担当職員が行い介護計画に生かしている。	全体でのカンファレンスは自粛であるが申し送り等で情報共有している。毎月家族へモニタリング表を送付して状態像を知らせ、新たな介護計画作成に向け意見等を得ている。ADL等評価表の更新がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報は共有するよう努めているが職員によって日々の記録が少ない事も多い。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前は家族の意向でマッサージが来所されサービスを利用していた方も居られたが、現在はコロナの影響で取り組む事ができていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域資源を活用しボランティアさんが来ていたが、今は出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、かかりつけ医の説明を行い往診を含み適切な医療が受けられるよう支援している。又、元々のかかりつけ医を希望される方には契約に基づきご家族対応で継続する事が出来ている。	協力医療機関(内科・歯科・皮膚科)による定期又は必要時の往診体制を整えている。月に1度歯科医院より口腔衛生管理体制による助言や指導を得ている。看護師が配置され受診支援を行っている。	

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化など看護師に相談して指示を仰ぎ適切なケアを受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には状態に応じて早期退院できるよう話し、おおよそ1週間を目処に状況・状態を確認しながら情報交換や相談に努め関係づくりを行っている。又、入居者様には面会時に「早く帰って来てね。待ってるよ」等の声掛けで安心して頂けるよう心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、重度化や終末期に向けた事業所の方針など説明した上で、ご本人・ご家族の意向に沿った支援ができるよう努めているが、現時点ではその様な状況にはない。	利用契約時に「ご利用者が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し同意を得ている。利用者の状態変化に応じ、医師の判断の下に関係者全体で今後の方針を取り決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しているが訓練などは行っていないので、全職員に急変時の対応が身についているとは判断できない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行ってきたが、コロナの影響で昨年は1回のみとなっている為、十分とは言えず定期的な訓練を要する。又、地域との協力体制は築くことが出来ている。	令和1年11月、夜間想定火災避難訓練を行っており、今年度は3月15日に通報を含めた火災避難訓練を計画している。非常災害対策計画が策定されている。災害に備えた備蓄品を確保している。	全職員による災害時における対応手順の確認と消防署の指導を得た実践的な避難訓練の実施に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に気を付けてプライバシーに配慮した対応を行うように努めている。	職員は研修で利用者の行動を抑制する言葉がけの事例をあげて学び、誇りを損ねない話しかけをしている。個人記録はパソコンに入力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を確認しながら、意向に添うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いすることなく本人の意思を尊重しながら、ペースを乱さず生活して頂ける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ渦で理美容は利用できないですが、身だしなみや整容は支援出来ている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ渦で一緒に食事をする事は出来ませんが、一人一人ご本人のペースで食事をする事ができている。又、出来る方には準備や下膳などして頂いている。	献立は決めてあるが、行事メニューの主食を米飯からサンドイッチに変更したり、節分に恵方巻を作っている。出前でお寿司ランチをしたり、手作りおやつと一緒に作るなど楽しい時間になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による管理のもと栄養バランスの取れた食事を提供する事が出来ている。十分に食事や水分が摂れていない方には声掛けや介助にて支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け又は介助にて口腔ケアを実施し口腔衛生に努めている。又、口腔衛生管理加算に伴い歯科医による様々な助言に基づきケアする事が出来ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。又、排泄リズムを作る為に定期的にトイレ誘導を行い排泄を促す支援を行っている。	パソコン内の個人記録に排泄の記録を付けている。記録を確認しながら、利用者ごとのパターンや時間を見て適切なタイミングで排泄ができるよう誘導し、失敗のないよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促す声掛けを行ったり予防に取り組んでいます。未排便が続く時は、医師に相談し薬などでコントロールする事ができている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では、順番で入浴となっていて時間もある程度は決められている為、本人の希望通りには行えていないと言える。	曜日を特定せず基本午後の時間帯に、1人週に2～3回または隔日に入浴する利用者もいる。好みの湯加減や本人の好きな湯道具、湯船で歌ったり会話が弾むなど安心や満足感が持てる入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を把握し対応している。自ら居室で休まれている時は見守り支援できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が薬についての知識は身につけているとは言えないが、利用者が服用している薬はファイルにて共有している。服用時は2名体制で確認し誤薬防止に努めている。又、薬が変更・追加された際は様子を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた生活支援を行っている。できる事を継続して頂ける様声掛けを行っている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナの影響で出来ていないが、以前は外出支援・散歩など実施する事ができていた。	遊歩道に出かける場合もマスク着用で感染症対策をして散歩をしている。以前は外出も頻繁にあり、金太郎池や花見の時期に時代村などへのドライブ、菓子を買ったり外食にも出かけていた。感染症対策としての外出規制の解除を利用者も職員も楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ渦で、本人が直接お金を持ち出かける事は無いが、以前は職員と一緒に外出し購入するなどして支援できていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった際は職員が間に入り電話を掛けたり、家族に連絡して手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月入居者様と一緒にカレンダーを作っていて、それを共用空間で使用したり、誕生会や行事のあった際の写真などを掲載し会話に繋げられるよう工夫を凝らしている。	談話コーナーもある明るく広いリビング・ダイニングは神棚や季節の飾りがあり、カレンダーや手作りの作品が掲示されている。利用者が集い演歌や童謡のDVD鑑賞やゲームをしたり、職員との会話でゆったりした時間を過ごしている。エアコンや加湿器で空調管理された快適な共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の他、何処で過ごしたいか本人に確認しながら、自由に過ごして頂けるよう声掛けし支援に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は居心地よく過ごして頂けるよう、ご家族には馴染みの家具を持って来て頂くようお願いしている。	照明器具とカーテンの備え付けられた部屋に、自宅で使い慣れたベッドやテレビの他、思い出のある物品を持ち込んでいる。仏壇や配偶者の写真が飾られ、家族との思い出の品などを傍に置き、自分の暮らしが守られる部屋で安心して暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室の前には名前を付けるなどして分かり易く工夫しており、トイレや洗面台は車椅子対応になっている。又、なるべく自由に動く事ができ危険がないよう配置に工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600640		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム ふるさと (憩いユニット)		
所在地	苫小牧市豊川町2丁目1番2号		
自己評価作成日	令和3年2月22日	評価結果市町村受理日	令和3年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・安心安全のなか、自立支援に努めています。それぞれの能力に応じて掃除や洗濯、料理の下ごしらえなどの役割を持って頂くことで日常生活にメリハリがつき生き生きとした毎日を送り、出来る事の継続が自身に繋がるようサポートしています。

・アットホームな雰囲気の中で、ゆっくりとした時間を過ごして頂いています。また、プライベートな空間(居室)では馴染み深い家具や写真を置くなどすることで自分らしく安心して寛ぐ事が出来る環境作りに努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyoCd=0193600640-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社名変更に伴い職員全員が関って新しく理念を作成共有し、ユニット内の目に付くところに掲示し全職員が意識しながら実践に繋がられるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において感染拡大を防止するため、以前のような繋がりが難しくなっている。(＊買い物含め外出全般・町内会の祭りや盆踊りの参加など)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	十分に活かす事は出来ていないが、ブログやホームページ・パンフレットを活用して少しずつ活かして行けるよう努めている。又、今後はどの様に地域に貢献できるか、地域の方々に知って頂けるかを考え実践できるよう取り組んでいきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度(年6回)の開催で、取り組み状況や近況報告にて話し合いを行いサービスの向上に活かしてきたが、コロナの影響で今年度は第1回目より書面での報告としている為、意見などは寄せられていない。又、入居者様の様子はブログでも発信している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係を築いていく為、空き状況・待機者数の報告・サービスの取り組みについてなど伝えながら連絡を密に取れるよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを職員に周知し理解を得られるよう努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時の研修及び不適切ケア防止委員会やそれに伴う研修の履修を通して学び、職員1人1人が意識していけるよう虐待防止に努めている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	無資格・未経験の1~2年未満の職員が多い事とコロナの影響で研修に出す事が出来ない為、全職員が学べる機会を設ける事は出来ておらず、今後の課題としそのような場を設けられるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、不安や疑問点を聞きながら十分な説明を行い理解を得られるよう努めている。又、改定などの際にも同様に説明を行い同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス内容に関しての意見や要望は聞かれ、運営に関しての声は余り聞かれないが、その都度意見・要望等がある際には反映させるよう努めている。又、苦情相談窓口も設置している事を伝えている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が働きやすい環境にしていく為にも、個人面談等を通して不満や疑問点を聞きながら、出来る限りで反映させていけるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が向上心とやりがいを持って働けるよう、事業所実績や勤務状況を把握し、職場環境の整備や条件の改善・見直しに努めて頂いていると思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	面談や内部研修の実施・初任者研修などの資格取得の為に学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの影響もありそのような機会を持つことは難しかったが、今後は取り組む事ができればと考えている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階では関りを多く持ちながら、本人が安心して過ごして頂けるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	フェイスシートの活用、家族の思いを汲み取り要望に応えられるよう努めているが、稀に無理難題を求められる事もある為、その際には理解して頂けるよう説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況・状態を把握し、要望を聞き取りながら「その時」必要とする支援かを見極め、他のサービスも含め検討し併用で支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしを通し、家事やレクリエーションの時間を共有しながら共に過ごし家族のような関係性を築き信頼を得ている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月モニタリングと一緒に状況を伝える手紙を送り、家族と本人を繋ぐ役割を担いながら双方の絆を大切にしている。又、ご本人にとって何が一番かを一緒に考えながら共に支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響から面会や外出が制限されているため、雑談を通して想いを共有しこれまでの関係が途切れることなく継続していくよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性をもとにレクリエーションの促しや作業分配を考え関りを持ち合う事が出来るよう支援している。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者は退去後も、ご家族・ご本人から定期的に連絡や相談があり、これまでの関係を無駄にする事のない様その時々でフォローや支援に努めている。又、連絡が途切れた際には安否確認を兼て連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりと関り、会話や表情、動きを観察しながら思いを汲み取り出来る限りで本人の望む生活が送れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境は個別にファイルにまとめてありいつでも目を通し職員等で共有出来るようになっていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの状態を観察・記録し、出来る事、出来る事な事を考え、有する力を発揮して頂けるよう援助している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング会議等はコロナ感染防止のため出来ていないが、毎月のモニタリングは担当制で行い1冊のファイルにまとめ全員で共有し介護計画に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は詳細に記録し、職員間で共有しながらケアプラン更新時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響で活動や行動の制限もあり限られた中でのサービスとなってしまう工夫が必要だと感じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナの影響でイベントや月に1度の手芸教室・ボランティアなどの地域資源の活用が全く出来ずメリハリのある支援ができていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、かかりつけ医の説明を行い往診を含み適切な医療が受けられるよう支援している。又、元々のかかりつけ医を希望される方には契約に基づきご家族対応で継続する事が出来ている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化や気になる事は看護師と相談し、速やかに受診するなど適切なケアを受ける事ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には状態に応じて早期退院できるよう話し、おおよそ1週間を目処に状況・状態を確認しながら情報交換や相談に努め関係づくりを行っている。又、入居者様には面会時に「早く帰って来てね、待っているよ」等の声掛けで安心して頂けるよう心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、重度化や終末期に向けた事業所の方針など説明した上で、ご本人・ご家族の意向に沿った支援が出来るよう努めているが、現時点ではそのような状況にない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルはあるが、定期的な訓練を行う事は出来ておらず実践に欠けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施していたが、コロナ禍の為今年度は1度のみの予定であり十分とは言えない。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりを尊重し、言葉遣いなどには常に気を配り誇りやプライバシーを傷つけない対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを傾聴し希望を引き出せるよう働きかけ自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを尊重し決まりを押し付けることなく、ゆったりと危険のないよう自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の気持ちを大切にしながら、言葉で伝えたり手伝いながら身なりを整える事が出来るよう援助している。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえなどの調理準備や食器洗いを行って頂いたり、食事中も側にいて見守り会話をしながら楽しい時間になるよう努めている。(従来では、一緒に食事をしていたがコロナ感染防止のため時間・場所を変えて別々になっている)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理のもと食事の提供をしており栄養バランスは確保できている。声掛けしながら十分な摂取の確保が出来るよう努め、不十分な方には、昼夜問わず少しずつ小まめに水分提供するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方が多し事もあり、毎食後のケアは行えていないが1日に1~2回は本人に合ったケアが行えるよう支援している。又、口腔衛生管理加算に伴い歯科医による様々な助言に基づきケアする事ができている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適切なトイレ誘導の声掛けを行い、分からない事、出来なくなった事だけを援助するなど自立を促しながら行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の訴えがあった時には看護師や医師に相談しながら薬の調整を行うなど予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は限られてしまうが、個々の希望やタイミングに合わせて楽しく入浴して頂けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を観察し、必要に応じてゆっくり休めるよう支援している。自ら居室で休んでいる時は見守りが出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のリストは個別ファイルに綴っており必要な時に自由に確認できるようになっている。又、特変時や状態に応じて臨時薬・追加薬などある際には、状態の変化・状況などの確認をし経過観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除や食器洗いなど個々の力を生かした役割を持ち日常生活にメリハリをつけている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり、気候の良い季節は施設前の散歩のみ出来ていたが、その他の希望に沿った外出は出来ていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの影響で職員と一緒に買い物に行くことも制限されているため、金銭を所持する事もできず支払いなどの機会は持てなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナの影響で面会が出来ない状況が続いている事もあり、本人の申し出により家族へ電話を繋ぎお話しする事が増えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	程よく生活感を出しながら、共用の空間には写真や作品を飾り、興味関心を持って頂き心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には、食卓の椅子の他、ソファも数か所に備え入居者が自由に思い思いに寛いで頂けるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は、混乱を防ぐ為にも、使い慣れた家具や寝具を持ち込み馴染みの環境を作って頂き心地よく過ごして頂くことが出来ている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内を自由に動く事ができ、危険がないよう配慮し見当識が低下している方の為に、トイレや個室に目印になる物を付けるなど工夫している。又、トイレや洗面台は車椅子での使用も出来るようになっていく。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームふるさと

作成日：令和 3年 3月 24日

市町村受理日：令和 3年 3月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防署の立ち会い含め年2回の訓練を実施していたが、今年度はコロナの影響で1回目の訓練が中止となり、令和3年3月15日実施した1回のみとなっていた。又、火災以外の訓練が実施出来ていないこともあり、全職員身につける事ができていない。	定期的な訓練を実施し、全職員が災害時に必要な対策方法を身につけていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・火山、土砂災害の警戒区域になっている為、それに向けた訓練の実施。 ・苫小牧市の防災ハンドブックや非常災害対策計画を活用して対処法などを把握する。 ・消防署立ち会いでの訓練実施。 	1年
2	27	日々の記録は個別に記録されていて職員間で情報を共有出来ているが、日により記録が漏れていたり情報が少ない時がある。	全職員が、個々のサービス内容を把握して日々の記録をしっかり残せるようにし情報を共有する事で、より良いケアの提供と介護計画の見直しに活かす事ができるよう取り組んで行く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ケア内容に添ったサービスの提供が出来ているか記録し、気付きや特変があった時は都度記録していく。 ・情報が少ない時は、1日を振り返り職員間で確認し合って記録する。 ・ケアの実践、結果は毎月行っているモニタリングで評価し今後の方針に繋げていく。 	1年
3	49	昨年の2月以降、コロナの影響で面会・外出・ボランティアの受入れ等の制限がかかり、通年で行っていたサービスの提供ができずにいた中、感染防止対策をしっかりと上で出来る限りの支援を考え、マスク着用で施設周辺の散歩に出掛ける等していたが、ご家族に施設での様子が上手く伝わっていなかった。	以前より、お手紙で日々の様子を伝えていたが、今後はコロナ禍で、より一層分かり易く入居者様が日々をどう過ごしているのか、ご家族に伝えていけるようにしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが終息した際には、以前のように季節の行事を予定し実施していく。 ・日々の様子を記録し、月に1度手紙を出す際には状況、状態を分かりやすく伝えていく。 ・ZOOM面会が実施できる体制を整え、ご家族に周知し徐々に行えるよう取り組む。 	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。